

令和7年度宮城県国民健康保険運営協議会（第1回）会議録

- 日 時：令和7年10月24日（金）午前10時00分から午前11時17分まで
- 場 所：宮城県行政庁舎11階 第二会議室
- 出席委員：8名〔小坂委員（会長）、石田委員、佐藤委員、高橋委員(Web)、森川委員、玉山委員(Web)、青柳委員(Web)、菅野委員〕
 - ※Web：ウェブ会議システムにより出席
 - ※欠席：角張委員、奥村委員、木下委員
- 事務局：国保医療課（三浦課長、中山総括課長補佐、阿部主査）

<p>1 開会</p> <p>中山総括</p>	<p>ただ今から令和7年度第1回宮城県国民健康保険運営協議会を開会いたします。</p> <p>本日の協議会は情報公開条例第19条の規定に基づき公開となっております。また、協議会の会議録につきましては、後日委員の皆様にご確認をいただいた後、国保医療課のホームページにて公開いたしますので、御承知おきください。</p> <p>続きまして、委員の皆様のご出席状況を御報告いたします。本協議会の委員は11名でございます。本日はこの会場に5名、ウェブ会議システムで3名、計8名の委員の皆様にご出席いただいております。過半数の委員の方に御出席いただいておりますので、国民健康保険運営協議会条例第4条第2項の規定に基づき、本日の協議会が成立しておりますことを御報告いたします。なお、出席予定でありました被保険者代表の角張委員につきましては、所用のため本日は欠席となっております。</p> <p>続きまして、今回団体の御推薦によりまして、新たに2名の委員を任命させていただきましたので、御紹介申し上げます。私からお名前をお呼びいたしますので、一言ご挨拶をいただければ幸いです。</p>
<p>2 委員紹介</p> <p>中山総括</p>	<p>（出席者名簿に従い紹介、挨拶）</p> <p>ありがとうございました。それでは、この後の進行につきましては会長にお願いいたします。</p>
<p>●署名委員の指名</p> <p>小坂会長</p>	<p>会長の小坂でございます。ウェブで御参加の方も含めて、各委員の皆様の御協力を得ながら、活発な議論をしていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>それではまず始めに、宮城県国民健康保険運営協議会運営要綱第5条2項に定める会議録の署名委員を定めたいと思います。会議録署名委員として高橋邦明委員にお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。</p> <p>（一同承認）</p>
<p>3 議題</p> <p>小坂会長</p>	<p>それでは、高橋委員と、会長の私の方で会議録に署名することにいたします。</p> <p>それでは次第3の議題に入ります。（1）宮城県国民健康保険特別会計について、事務局から御説明をよろしくお願いいたします。</p>

<p>三浦課長 阿部主査 小坂会長</p>	<p>(資料１－１から資料１－５により説明)</p> <p>今、資料１－１から１－５まで説明いただきました。非常に複雑な国保制度の枠組みを、分かりやすく説明していただいたと思います。もし、今までの説明について、特に新しい委員の方もいらっしゃると思いますので、基本的な質問でも構いませんが、御質問や御意見はございませんでしょうか。なお、本日はウェブ会議システムで出席されている方もおりますので、こちらで指名して、名前を言ってから御発言いただければ幸いです。いかがでしょうか。</p>
<p>佐藤委員</p>	<p>一般被保険者代表の佐藤です。よろしくお願いいたします。</p> <p>今、説明を受けた中から、少し分からない点がありますので、御質問させていただきます。資料１－３ですね、一番下の精算後の繰越金見込み額ということで、３２億６８０万円という金額ですが、先ほどの説明では一部を基金に積み立てるという御説明でした。市町村の場合は、この繰越金の２分の１以上を基金に積み立てるという条例を作っていますが、この宮城県の場合、この繰越金のいくらかを条例に基づき積み立てるということが定まっていなかったのかどうかという点と、現在、その基金残高の合計額がいくらか教えていただきたいと思います。以上です。</p>
<p>三浦課長</p>	<p>まず、この基金に積み立てるということですが、これは財政調整事業という制度に基づいて積み立てております。令和３年度に法改正がありまして、令和４年度から実施となっております。確かに市町村の方は、決算剰余金の半分以上積み立てるというルールがあると思いますが、このことについては、特に割合などの規定はございません。それから、決算剰余金を積み立てておりますが、令和４年度から制度が始まりました。県で積み立て始めたのは令和５年度でして、令和５年度に８億円積んでおり、令和６年度に先ほど説明しました５億円積んでおります。ただし、１億３、６００万円ほどを先ほど申しました市町村の引き下げに充てておりますので、残高としては１１億６、０００万円となっております。</p>
<p>佐藤委員</p>	<p>ありがとうございました。そうすると、その基金積立につきましては、各市町村と協議をして決めるということになると思いますが、いくらかという割合も全然決まっていないということですので、その辺、あまりその基金積立を多くするよりは、繰越金を多くしていただくと、その分市町村の納付金の金額をいくらかでも抑えていただければと思っておりますが、いかがでしょうか。</p>
<p>三浦課長</p>	<p>おっしゃるとおりかと思います。これは市町村のためのお金ですので、市町村と協議しますが、いつ市町村のために使うかということです。今おっしゃったとおり、繰越金に使用しますと、今年度あるいは来年度の負担軽減ということになりますけれども、積み立てたとしても、それはあくまで市町村が何か財政的に困った時に使うということですので、いつのタイミングで使うかという問題です。そこのバランスについては、私も特にリードするわけではなく、市町村に相談した上で決めてまいりたいと思います。</p>

小坂会長	<p>なかなかどのくらい基金に積むかというのは、難しい話だと思いながら聞いておりました。今回のインフルエンザなど、いろんなお金が医療費にかかっている中で、それを何とかやりくりするというのは、非常に綱渡りのことを毎回しているなと思いながら聞いておりました。</p> <p>オンラインの委員の方々も何か御質問、御意見はありますか。</p> <p>(意見なし)</p>
小坂会長	<p>それでは、議題1については原案どおり了承とさせていただきます。</p> <p>続きまして、議題の(2)第3期宮城県国民健康保険運営方針の管理指標について、事務局から説明をよろしく願いいたします。</p>
阿部主査	<p>(資料2により説明)</p>
小坂会長	<p>事務局から資料2に基づき説明いただきました。各委員から質問やコメントをお願いします。全体を見ると、1人あたりの医療費は宮城県は割と高いけれども、保険料は全国より低い。これはうまく行っているようにも見えなくもないと思いますが。</p>
森川委員	<p>宮城県薬剤師会の森川でございます。一つだけ、今、小坂会長が言われたように、ずっと県の平均の1人あたりの医療費が全国平均を少しだけ上回っている、この原因や理由というのは、高齢化が進んでいるとか、何かあるのでしょうか。教えていただければと思います。</p>
三浦課長	<p>医療費の地域格差というものについては、人口の年齢構成や、あとは医療供給体制、そのほか何よりも被保険者の方の健康に対する意識とか受診行動、そういったものが複合的に作用しているということで、なかなか私どもとしても要因分析までは至らないところです。ちなみに下回ってはいますが、一応全国の順位としては24位ということで、ちょうど47都道府県の真ん中あたりとなっております。こういった分析についてはこれからも取り組んでまいりたいと思いますが、委員の皆様から何か御助言などあれば、今後御協力いただきたいと思います。</p>
森川委員	<p>複合的ということですが、ずっと医療費が高いので、何か原因があるのかなと思っておりました。</p>
三浦課長	<p>ただ、放置しておくわけにはいかない話だと思います。各市町村で医療費適正化の取組をやっておりますが、国保は保険者が市町村となっておりますので、市町村が取り組むところです。県としましては、2年に1回のペースで全市町村を訪問し、色々聞き取りなどを行っています。この医療費適正化についても色々聞き取りをしています。好事例などの横展開などを通じ、少しでも引き下げになるように努力してまいりたいと思います。</p>

小坂会長	<p>確かに宮城県は、いろんな病院も豊富にあるし、高度な医療を提供している医療機関も多いというところで、そういう意味では他の県よりも高くなるというのは、理解できると思います。それから、やはり全体に上がっているというのは、新しい医療で、特にがん治療などの高額医療費、1ヶ月数十万、数百万が当たり前の世界になってきており、そういうのが保険診療の中でやられると、やはり上がってくるというのがあります。これは払う方としては大変ですが、受ける方としては、ある意味大きな利点というところもあると思いますので、そういう意味では、皆さんの幸福とか健康にあまり役に立たないような医療というの也被言われていて、それがどういうものかというものが今、研究なんかでも出ています。今後、国の方でそういった議論も始まるでしょうし、いろんな市町村で取り組みをしています、それはある程度限りがあるところだと思います。薬の後発医薬品も、もう今それがデフォルトになっていて、本当に正規の薬を出す時だけ、医師の処方箋が必要という形で、基本的に安くする方向に全体としては進んでいます。もちろん、やらなければいけないことがあるにしても、本当に明確に医療費を下げ、それが影響ないようなものというのを取り組んでいく必要がありますので、これは本当に県全体としても、他の担当課とも相談しながら進めていけば良いかと思います。</p> <p>ただ、全体として東北を色々回中で、本当に上位に、がんの死亡率や脳卒中の死亡率などがすごく高い県がある中で、宮城県は脳卒中以外は本当に恵まれているというところもありますので、そういう意味では、比較的他の県に比べるとそういった健康状態は悪くないというのは、客観的な事実ですので、今後ともこういった活動を続けていっていただきたいなと思っていました。</p> <p>一方で、国がこういう色々なお金を出すのは、頑張っているところ、収納率が高いところの点数を高くするのですが、別に頑張っていないから収納率が悪いとかいうわけではないと思います。そうすると、逆に国はそういう収納率が高いところを支援しようとするけれども、うまくいかないところこそ、やはり県などが支援するということも今後必要なのかなと思いながら、インセンティブだけというやり方はあまりうまくいかないのではないかという気もします。その辺も今後色々議論になるかなと思っていました。</p>
佐藤委員	<p>4ページの黒字団体数4団体ということですが、こちらの市町村名を教えてくださいませんか。それから、平成28年度には18団体が黒字だったのが、令和5年度は4団体ということで減少していますが、こういったことを県としてはどのように分析しているのか、分かれば教えてくださいと思います。</p>
三浦課長	<p>まず、黒字団体を読み上げますと、川崎町、丸森町、大衡村、加美町の4町村となっております。あと、この推移ということですが、まず、質問から外れますが、この黒字団体数というのは、歳入の総額から歳出総額を引いた形式収支では全市町村が黒字です。ですから、赤字団体というものはございません。では、なぜこういう指標を設けているかという、これは注意喚起の意味があると思います。黒字ですけれども、「例えば前年度からの繰越金があったから」とか「基金を取り崩して繰り入れているから黒字です」ということだと思います。ただ、他の県ではもう赤字でどうしようもなく、一般会計から赤字補填のための繰り入れをしています</p>

	<p>が、そういう団体は本県ではありませんので、健全かと思っています。</p> <p>あと、この団体数が減ってきている要因としましては、一番は保険料が高いところ、保険料が高くなっているため、住民の負担を軽減するために基金を取り崩して繰り入れているところが結構多いです。その基金を繰り入れた額を歳入から差し引きしなければならないため、このように赤字が増えている、黒字が減っているという要因となっております。やはり医療費がかかっていたりとか、国保は低所得者が多かったり、高齢者が多かったり、あとそもそも被保険者数が減ってきたりということもあり、厳しい財政運営をしておりますので、その基金の繰り入れなどがどんどん増えてきているのかなというところです。</p>
青柳委員	<p>協会けんぽ宮城支部の青柳です。8ページの特定保健指導のところ、保険者としては気になるところでして、全国平均から少し乖離しているという実績になっております。そういった中で県の平均を見ますと、令和3年、4年、5年と着実に少しずつではありますが、向上している。ここは評価できるのかなと思っており、まずこの向上している理由について1点伺いたいと思います。2点目として、やはり全国平均からは乖離しているという状況にありますので、今後何かこれを高めていく具体的な取り組み、施策ということを今検討していることがあれば教えていただきたい、以上2点でございます。</p>
三浦課長	<p>こちらの件は、我々保健福祉部の中にあります健康推進課というところで担当しておりますので、詳しくはそちらの所管になりますけれども、健康推進課の方から聞いている話としましては、市町村と連携して、受診者に対する普及啓発、受診勧奨にともかく力を入れているということです。</p> <p>それから、青柳委員もメンバーとなっていていただいておりますが、県では保険者協議会というものを設置しておりまして、各医療保険の代表の方が集まった会議体があります。保険者協議会と連携した広報や先進事例の情報共有にも努めていると伺っております。今後も健康推進課と連携し、受診率の向上に取り組んでまいりたいと考えているところです。</p>
小坂会長	<p>会長の私からも少し補足ですが、市町村の保健師さんたちがすごく一生懸命いろんなことを考えています。大崎市とかいろんなところでですね、保健指導も従来のものに加えて、電話とか色々加えてオンラインでの様々なサービスも始まってきています。大体外部の業者さんをお願いすることが多いのですが、そういうことがかなり広がっています。宮城県は本当に受診される人がすごく多い。これは逆に言うとなかなかこれを上げるということが他の都道府県が苦勞している中で、これがずっと全国2位とか3位とかいう状況だというのが良いことだと思います。だから、そうすると受診者が多く、その中でこう選ばれる人も結構いて、その分母も多くなってしまうので、特定保健指導の受診率が低くなっているということがあります。</p> <p>それから、宮城県はやはりそのメタボに該当する人たちもやはり全国でいつも上位にいるということです。こういうのはどこまでやっていくかということもあって、我々も子供たちを調べると、やはり子供たちの肥満の多いところは、東北、北海道ともうずっと決まっています。気候的な要因とかそういうこともあるので、必ずしもそれが絶対ダメだということでもない部分があるし、それで医療費をどこ</p>

	<p>まで減らせるかというところのエビデンスを、もうちょっと必要とするところもあるように思っています。例えば、タバコ対策をやるというのはすごく健康に良いのですが、残念ながら医療費的にはトータルで見ると医療費が上がってしまうというように色々な観点がありますから、人々の健康と必ずしも医療費が正比例しない部分とか出てくるので、そういう意味では、本当に国民の健康にも良く、医療費も減るというような対策というのを、もうちょっと我々大学の人間も探っていかなければいけないだろうと思っているところです。青柳委員、もし何か追加で御質問等あればお願いします。</p>
青柳委員	<p>我々も保健指導の率を上げるべく色々策を練っているところです。先ほど三浦課長からありましたとおり、連携しながら取り組んでいくというのが一つであります。</p> <p>あと小坂先生のお話にもありましたけれども、協会けんぽでは子供たちに対する健康教育に力を入れようと考えておりまして、教材なども作っているところです。その辺もしっかり取り組んでいきたいと思っておりました。以上です。</p>
小坂会長	<p>本当に今、ライフコーススタディみたいなのが、子供のうちからの教育はすごく大事だと言われています。特に子供の生活環境がかなりずっと影響するというような研究も出ていますので、大人になってからでは遅いんじゃないかという話も出ています。ぜひ本当にそういう意味では、小さい頃からの生活環境を整えていくのが必要かなと思っておりました。</p>
石田委員	<p>被保険者代表の仙台市の石田です。よろしくお願いします。私は3ページの財政安定化基金の残高についてですが、資料1－4の表を見た時に、この基金の残高で令和7年9月末現在の数値が、令和5年度の数字と一緒にだと思って、この異なっている数字がなぜかということをお願いしたいと思って質問しました。よろしくお願いします。</p>
三浦課長	<p>こちらは我々の転記誤りで、資料1－4の方がちょっと更新が漏れていたところでした。申し訳ありません。正しくはこの資料2の方の3ページの令和6年度の数字、今は95億6,900万円ほどの残高となっております。大変失礼いたしました。</p>
小坂会長	<p>他よろしいでしょうか。</p> <p>(意見なし)</p>
小坂会長	<p>それでは、議題2は原案どおり了承ということでお願いいたします。</p> <p>続きまして、議題の(3)保険料(税)水準の統一につきまして、事務局から説明をお願いします。</p>
三浦課長	<p>(資料3－1～3－3により説明)</p>

小坂会長	<p>今回、様々な説明をいただきました。宮城県は他の県よりも前倒しをして統一に向けて動いてくださっているということだと思います。これにつきまして、御質問等ございますか。</p> <p>(意見なし)</p>
小坂会長	<p>これから各市町村が条例で決めていたことを、ある意味統一化していかなければなりません。今まで低く抑えられていたものが、完全統一に向けて上がっていくとなると、やはり各市町村も担当者レベルだけではもう判断できないことも結構出てきます。ただ、国民健康保険の安定的な運営のためにも、都道府県単位での統一というのは必要ですし、先延ばししてもあまりメリットはないだろうと思いますので、そういった意味で着実に進めていただいているのはありがたいと思っています。よろしいでしょうか。</p> <p>(一同異議なし)</p>
小坂会長	<p>それでは、この議題3についても原案どおり了承ということでお願いします。議題(4)その他に移ります。委員の皆様から、その他で何か連絡事項はございますか。よろしいでしょうか。</p> <p>(特になし)</p>
小坂会長	事務局から何かありますか。
三浦課長	特にありません。
小坂会長	<p>それでは委員の皆様、ありがとうございました。本日より予定しておりました議題は全て終了しました。御多忙の中、大変ありがとうございました。この後の進行については事務局にお返しいたします。</p>
4 閉会 中山総括	<p>ありがとうございました。委員の皆様、長時間にわたる御審議大変お疲れ様でございました。以上を持ちまして、令和7年度第1回宮城県国民健康保険運営協議会を閉会いたします。本日は誠にありがとうございました。</p> <p>【終了】</p>

会長署名

印

会議録署名委員署名

印